

## 「栄養教諭を対象とした意見交換会」開催概要

### ❖開催日時・開催場所

日 時：平成24年3月5日（月） 13：30～16：00

場 所：鳥取第1合同庁舎2階共用会議室

### ❖参加者（20名）

県内栄養教諭（11名）・JA 鳥取中央会・鳥取短期大学（2名）・鳥取県（教育委員会1名、福祉保健局2名）・鳥取地域センター4名

### ❖主 催

鳥取地域センター

### ❖後 援

鳥取県教育委員会

## 【意見交換会概要】

### ◆学校向け DVD 鑑賞（全国実践事例）

教育ファームをはじめてみませんか！

～農林漁業体験学習で「食育」を～（農山漁村文化協会作成）

「地域と結ぶ授業づくり、学校づくり」

### ◆取組み発表

「とっとりの食育活動について～食育アンケート結果～」

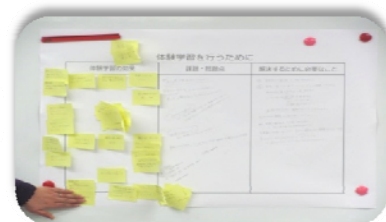
鳥取短期大学 生活学科食物栄養専攻 教授 野津 あきこ 氏

鳥取県内の食育活動を幅広く把握し、県内における食育活動の効果や課題を探る事を目的に「平成23年度とっとりの食育レポート活動事業」（鳥取県委託事業）が実施され、その一環として「食育活動調査（食育アンケート）」を行いました。

アンケート結果では、食育の取組みの効果は、アンケートを行った全ての機関・団体が、「大いに見られる」「ある程度みられる」と回答しています。その理由として、朝食回数の増加、給食残食率の減少及び食べ物への興味や関心が増えたなどがあげられています。また、教育機関等では、食育は家庭での推進が必要であるという回答も多くあります。さらに、食品産業・飲食店等では地産地消を中心とする取組みが増えています。



## 【意見交換会（グループワーク）】



### 目 的

学校現場において取り組んでいる食育の体験活動の成果や、関わっていく過程の課題・問題点を整理し、解決策や手法を探ることによって、今後栄養教諭としてどのように食育の体験活動に関わっていけばよいか、またどのような取り組みを行えるかなどを話し合い、更なる食育の推進を図ることを目的に行いました。

### グループ編成

5名～6名を1班として、3班のグループ編成を行いました。

### グループワーク概要

出席者には、事前に今回の意見交換会では、食育の体験活動の効果や課題・問題点などについて意見を出していただく事をお願いしました。



当日は各グループに別れ、75分間のグループワークを行いました。

最初に体験学習の効果を付箋紙に記入し、各々が経験を交えた意見を述べながら大判の模造紙に貼り、各グループ内でその効果を共有するようにしました。その後、自由討議を行い、体験学習を行っていく上での課題・問題点とその解決策について話し合っていたき、どのグループも、活発な意見交換となりました。

各班では「栄養教諭が学校現場でどのように食育に関わっていけばいいのか」「時間がなく、一連の作業を行いたいが一度の経験で終わってしまう」「一度きりなので成功を求めて、過大なお膳立てをしてしまう」「担任との連携が必要」など経験を基に意見が出されました。また、「地域との繋がりが少ない」「指導者の確保が難しい」「生産者や指導者とのパイプ役がない」などの課題・問題点も多く出されました。

意見交換の中では、体験学習を、学校で募集した地域ボランティアに指導していただいている話も出されるなど、よい情報交換の場になったのではないかと考えます。（各グループのワークシートについては別添参照）

### アドバイザーのまとめ

#### 《野津先生》

感謝の気持ちが育つ。作る喜びを感じる。地域との繋がりが出来る。これらをまとめると、人づくりに繋がっていると思います。それは生きる力にも繋が

っています。体験の時間が少ないという課題が多くあり、学校では難しいところがありますが、この意見交換会が一つのきっかけづくりになれば良いのではないかと思います。

そして、農業のいいところばかりの体験ではなく、大変さも伝えながら農業の大切さを伝えることができれば、より良いのではないかと考えます。

《植村総括管理官》

本日は貴重な意見をいただき、ありがとうございました。

私は単身赴任をしており、土日は農業をするために地元に帰っています。

食育を推進するには、地域のお年寄りの知識を頂く必要があると思います。まずはお父さんやお母さんに食育をしないと、子ども達に望む食育はできないのではないのでしょうか。

また、お年寄りの智恵の伝わりが必要であり、それをいかに地域の子ども達に教えていけるかが重要であると考えます。私の村では、お年寄りのボランティアが、子ども見守り隊として学校の送り迎えをしています。最初は嫌がっていたお年寄りの方々も、農作業中に、学校帰りの子ども達が「ただいま～」と声をかけてくれるため、今では送り迎え役を皆がしたくて、大人気となっています。こうした地域の子ども達とお年寄りの直接の関わり、ふれあいの場をつくるのが大切だと思います。

